

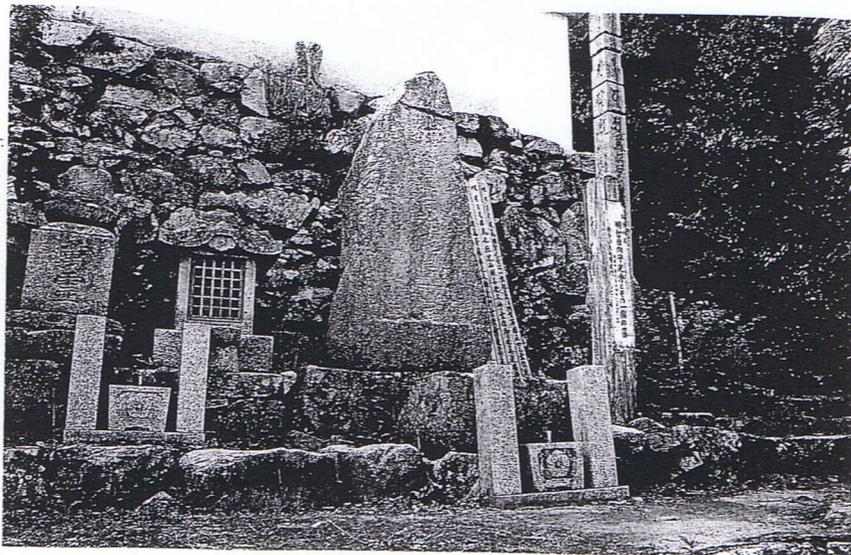
# 坂本城と

# 明智光秀

## IV. 下阪本周辺の明智光秀関連遺跡

“明智光秀を歩く”に関する資料

平成22年5月作成



明智一族の墓 西教寺

坂本城を考える会

# 「明智光秀を歩く」 関連遺跡

## 1. 坂本城址の石碑

坂本城の跡地。元龜2（1571）年、織田信長の命により琵琶湖の水運による交易の確保と比叡山延暦寺に対する抑えとして明智光秀が築城。交易は東国⇒琵琶湖⇒坂本⇒志賀越・山中越⇒京都白川（今道越）又は東国⇒琵琶湖⇒坂本⇒白鳥越・青山越⇒京都修学院（古道越）。坂本の港は三津（御津）－今津、志津、戸津。坂本城は安土城の試作としての城という説がある。初めての瓦葺き、天主を持つ。水城。天正10（1583）年、本能寺の変後焼け落ち、豊臣秀吉の命により丹羽長秀が再建。天正14（1587）年、浅野長政により、廃城となり大津城へ移転。大坂城・伏見城築城に伴い、交易のルートは琵琶湖⇒浜大津⇒逢坂越⇒京都・大阪へのルートに変更。坂本城の範囲は、ほぼ北は旧藤ノ木川、南は信教寺川、東は琵琶湖、西は穴太から坂本に向かう下道の線の間と推定される。

## 2. 東南寺（下阪本3丁目）

坂本城の跡地。今津堂ともいう。坂本城の跡地に新たに戦死者供養のために造営されたという説もあるが、伝教大師最澄の開基とされ、応仁の乱の頃、今津堂で手猿楽の興行が行われた記録があり、それ以前の中世から存続し比叡山焼き討ちにより焼失したが、坂本城の焼亡により戦死者供養のため再興されたとされる。

## 3. 明智塚

坂本城で戦死した将兵を祀る。光秀の墓所とも、光秀一族の墓ともされる。光秀の刀である郷義弘埋葬と伝える。

## 4. 坂本城の石垣（湖中）

本丸の石垣であるが、天主の位置不明。坂本城の石垣はここだけで他に残されておらず、坂本城の資材が大津城へ運ばれたとされることから、坂本城の石垣の石も大津城へ運ばれたのであろうか。

## 5. 坂本城址公園

正式名は北大津湖岸緑地公園。明智光秀の石像あり。東南寺川と信教寺川の間にあるが、坂本城の南限は信教寺川とされ、坂本城域の最南部か。

## 6. 両社神社（下阪本3丁目）

創建は元仁年間（1224～~~12~~25年）。高穴穂神社の祭神を勧請。伊邪那伎・伊邪那美を祀る。比叡山焼き討ちにより焼失し、天正3（1575）年再建。現在の本殿は元和6（1620）年広島藩主浅野長晟が建立。この時から酒井神社から独立。

## 7. 酒井神社（下阪本4丁目）

創建は弘仁元（810）年。名前は大きな石から酒が湧き出したことに由来。天正16（1588）年再建。祭神は大山咋神。比叡山焼き討ちにより焼失し、現在の本殿は元和6（1620）年広島藩主浅野長晟が建立。本殿は県指定文化財。「おこぼまつり」は市指定無形民俗文化財。両社・酒井神社は、浅野長政の子の浅野幸長の産土神。

8. 西教寺（坂本5丁目）

明智一族の菩提寺で、妻子（ひろこ）を含む一族の墓。比叡山焼き討ちにより焼失し、光秀が復興に尽力。坂本城から総門、陣鐘、陣屋。天台真盛宗総本山。

9. 聖衆来迎寺（比叡辻2丁目）

長保3（1001）年、源信が開基。森可成の遺体を葬ったことから焼き討ちを免れる。坂本城から表門。光秀寄進の鐘。国宝・重要文化財も多い。森可成の墓。

10. 盛安寺（坂本1丁目）

創建不明。文明年間（1469～87年）に杉若盛安が再建。客殿、十一面観音立像が重要文化財。光秀ゆかりの陣太鼓。光秀供養塔。

11. あほ山（青山）

砦跡。白鳥越（青山越）を押さえる。山腹部の東と西に石垣が残る。

12. 壺笠山城

浅井・朝倉軍の城。後に明智光秀の砦跡。白鳥越（青山越）を押さえる。石垣が残る。

13. 宇佐山城

元亀元（1570）年、森可成が築城。後に光秀城主。志賀越・山中越を押さえる。石垣が残る。

14. 三津浜（御津浜）

琵琶湖海運の拠点。今津、戸津、志津の三港（三津）又は成務天皇の高穴穂宮の港（御津）

その他

15. 慈限堂（恵日院）（坂本4丁目）

天海の廟所。天海の死の3年後の正保3（1646）年建立。慈限堂とは天海が慈限大師の号を賜ったことに由来。

16. 東照宮（坂本4丁目）

元和9（1623）年、徳川家康を祀る社として天海が勧請。本殿は重要文化財。明治の神仏分離以後、日吉大社の末社として管理。

17. 比叡山の石碑

「慶長二十年二月十七日奉寄進願主光秀」の石碑が比叡山に残されている。